

2023年11月19日

ついに愛が完成した 並川 千晶

11月5日、風の教会で行われた総会の冒頭、ピーター先生は『神は天にあるもの地にあるものを、ことごとくキリストにあって一つに帰せしめようとしたのである(エペソ1:10)』ということはずっと考え続けてきたけれど、総会コンサートを通して分かった」と力強く語られました。心からアーメンでした。

このコンサートを通して主が現わして下さいたことこそ、まさしくこのみ言葉の通りだったからです。私はさんび隊として立たせていただいたのですが、体調がギリギリの状態だったこともあり、ソロ隊から歌のレッスンを受けた時もすごい緊張で声がひきつるなど、箸にも棒にもかからない状態でした。しかし主はそんな者までも主の完全な愛の中に入れ、録音当日には「一人の人が歌っているようだ」とまで言われるほどに神の愛に覆われていました。

日々の練習の中で、最後にある「皆さんと共に」のさんびをプロデュース通りに練習しても、「何か足りない、未完成すぎる、早く『皆さんと共に』を皆さんと一緒にさんびしたい」という思いがわきあがり、その時を切に待ち望んでいました。さんび隊だけでは決してこのコンサートは完成しないという強烈な主の願いが迫ったのです。

そしてその日がついにやってきました。会堂いっぱい集められた方々の熱い思いを感じて、「皆さんと共に」をさんび隊が歌い出した後、会堂の皆さんの第一声、キリエの「キ～」の音が聞こえた時、思わず涙があふれました。ついについに、主の願いが完成した！ 会堂にいる方々だけではない、それに連なる膨大な人々、天の人、地の人、地の下の人たちと一つにされた瞬間、これこそが、「ことごとく一つに帰せしめられた」ということだと感動しました。

私は風の教会の近くの県営住宅に住んでいますが、ここを与えて下さったのは、主です。集会の時はいつも感謝から始めます。私は自分すら知らなかった私の本心は「遣わされたい！」だったと知って叫びたくなります。主の御手は短いとは決して思わないし、風の教会のさんびと祈りが地の果てまで届いていると本気で信じているけれど、もっともっと大胆にダイレクトに息が触れるほどに「遣わして下さい」という祈りが出てきます。

今回さんび隊として立つ時、ただ管として下さいと願い、立たせてもらうよろこびと感謝だけで立つと決断しましたが、ギリギリ主がそうさせて下さいました。あの時

祈った「遣わして下さい」の祈りの主からの答えだと心から主に感謝しました。

コンサートが終わってから、いやされている……何か大きないやしを受けたことが分かりました。私と一体になっていた緊張感がなくなっている。キリストのからだと一緒にされたからいやされたのだ!!!

私の緊張とは、幼い頃に家の事情から両親以外の祖母や近所の人たちに預けられていたことから発生しているのではないかと思っていました。ずっと祈ってきたけれど、完全にはなくならなかったのが根こそぎいやされていました。代表としていやされたということは、緊張を強いられているたくさんの人々、戦争や職場、学校、家族間でもあるかもしれませんが、主がおられるというさんびのひびきが息よりも近くに届きいやされたのだと思います。

なんという感謝なことでしょうか。ここに、「愛が成った、愛が成就した」美津子さんは、来年は「愛が成就する年」と言われましたが、それがコンサートで現わされた、さんびの民すべてをその証人として下さったことに感謝があふれます。

目に見えることはほんとうは真実ではない、愛が成就したことこそがほんとうのほんとのこと。「そこから目を離さないでいなさい、よろこびと感謝に生きよ」と言われているのですね。十字架があるから感謝できる、十字架の勝利を心からありがとうございます。

コンサートの最後のお祈りが近づいた時、ピーター先生がどこにおられるのか探していると、逆光の光の中からゆっくり歩いて来られる姿が見えました。あまりにも力強く、悠々として、まるで映画スターのようでした。イエス様の姿と重なり感謝でした。

(2023/11/5 関西地区スタッフ)